


読みの苦手さとの長～いお付き合い



北里大学医療衛生学部
石坂郁代(言語聴覚士)

2015.10.11

明治村移築の旧北里研究所本館

KITASATO UNIVERSITY

一人一人を理解することの大切さ

- 読みの苦手さは、一人ひとり異なっている
 - 知的能力の特徴
 - 音韻認識・音韻の記憶
 - 視覚的認知・記憶
 - 語彙力(意味システム)
 - 処理速度(WISC-IV)
 - ワーキングメモリ
 - 注意力
 - 興味・関心
 - 環境・生育歴・性格

だからこそ
「どう指導するか」
の前に
評価(実態把握)が
重要

などなど……

読みの障害は大脳の機能障害

- 発達の途上で、必ず症状が現れている
- エマージェント・リテラシー（プレリテラシー）に注目
 - 絵本を読んであげると、聞くのは好きだが文字に興味がない
 - 「これは何と読むの？」と聞いたりしない
 - 就学前に気づくことができる

表1 ひらがな71文字の読字・書字率(原, 2010)

| | 読字 | 書字 |
|-----|--------|-----------|
| 25% | 4歳8カ月 | 5歳2カ月 |
| 90% | 5歳10カ月 | 50%が5歳9カ月 |

小学校低学年 — 正確性も流暢性も低い

- ひらがなの読み方がなかなか覚えられない
- 音読
 - 一文字一文字読む(逐字読み), 特殊音節苦手
 - 一度習ったところは読める(覚えている)
 - カタカナはさらに苦手
- 鳥取方式 (Response to Intervention: RTI)
 - 1年生7月に第1回スクリーニング, 年間計3回
 - 指導しても効果が上がりにくい児童は診断へ
- 根拠のない「もう少し様子を見よう」「そのうち改善する」は, 百害あって一利なし!

• 音読

- 知っている単語は読めるが、よく知らない単語（ひらがなで長い単語）はとたんに読めない
- 語彙力が高いと、「勝手読み」が増える
- 漢字の複数の読み方がわからない

• 読解

- タイプ1: 時間をかければ、理解はできる
- タイプ2: 意味内容そのものの理解が難しい

• ローマ字(3年生)

- 子音と母音の組み合わせがわからない
- 文字(アルファベット)の認知ができない

- 音読
 - 初見では逐字読み明らか(例:年代物の教材)
 - 漢字熟語の読みが苦手
- 読解
 - 漢字熟語のおよその意味はつかめる
 - 抽象語の意味理解が困難
 - 文字を追う速度が読解の得点を左右する

どれだけ読むかが語彙力を左右する
その語彙力が読解を左右する

- 小学校で何とかやってきても、英語でつまずく
 - その背景に音韻の障害がある
- 英語の読み困難の症状
 - （読み以前に）英語の単語の音が覚えられない
 - ローマ字読みになる
 - 不規則な読みルールが覚えきれない
- デジタル教材の活用はこれから
- 高校受験の前に初めて受診するケースもある



Bright Readersと呼ばれる人たち

- 純粹にdecoding(文字 - 音の変換)だけ苦手
 - 読みは遅いが, その他の能力でカバーできる
- 勉強はできる(平均以上)が,
音読だけは苦手
- 気づきのポイント(例)
 - 英語・世界史だけが成績が悪い
 - 学校の定期試験はできるが, 外で受ける模試などはほとんど得点できない
- 自分がdyslexiaであることを知り, よい対応を身に付けていくとよい



併存症がある場合

- AD/HD

- 不注意による読みの誤りの部分は，注意の問題が改善すれば，改善する

- ASD

- 主として読解の問題

- 指示代名詞(こそあど)の係りがわからない
 - 文字通りの理解
 - 比喩の理解の困難
 - 心情理解の困難



将来に向けて

- decodingの障害自体は解消しない
- 「読むのが遅い」ことを自分なりに理解し受け入れ、前向きに取り組む気持ちを育むことが大切
- 早期発見・早期支援
- 目標：持ち合わせた機能を活用して困難に対するストラテジーを獲得する
- IT機器の活用を教える
- 心理面のサポートも重要

